

# 静嘉堂文庫美術館 2020年 年間スケジュール

## —「鉅鹿」発見100年— 磁州窯と宋のやきもの

2020年1月18日(土)～3月15日(日) 休館日：毎週月曜日(ただし、2月24日は開館)、2月25日(火)

中国宋代(960～1279)の陶磁器は「宋磁」と称され、中国の工芸文化のひとつのピークを示すものとして世界的に評価されています。2020年は、近代における宋磁蒐集の契機となった北宋の町「鉅鹿」遺跡と磁州窯の陶器の再発見からおよそ100年にあたります。磁州窯は白化粧や黒釉を用いた独特の文様表現によって、装飾性豊かな陶器を生み出しました。本展ではまとめて公開されることの少なかった館蔵の磁州窯とその周辺の陶器をはじめ、国宝「曜変天目(稲葉天目)」など宋磁の名品を紹介します。



【左】「白地黒搔落牡丹文如意頭形枕」磁州窯  
北宋時代(12世紀)

【中】「黒釉線彫蓮唐草文瓶」  
磁州窯系  
金～元時代(13～14世紀)

【右】国宝「曜変天目」建窯  
南宋時代(12～13世紀)

## 江戸のエナジー 風俗画と浮世絵

2020年4月11日(土)～5月31日(日) 休館日：毎週月曜日(ただし、5月4日は開館)、5月7日(木)

江戸時代(17世紀)になると、戦国の世が終わり、現世を楽しく生きようという考えが芽生えます。庶民の日常は画題となり、それは絵画の表現の幅を広げ、様々な絵師が多彩な活動をはじめます。そして何より、絵の中の人物は活き活きと楽しげで、明日へのエネルギーに満ちています。本展では、近世初期風俗画や狩野派を脱し江戸庶民の風物を描いた英一蝶ら江戸初期の作品から浮世絵へ、という展開を、初公開の肉筆浮世絵や浮世絵版画などもまじえてご紹介します。



【左】英一蝶  
「朝暈曳馬図」  
江戸時代(17世紀)

修理後初公開!

【右】重要文化財  
「四条河原遊楽  
図屏風」  
江戸時代(17世紀)

〒157-0076 東京都世田谷区岡本2-23-1 TEL: 03-5777-8600(ハローダイヤル)

開館時間: 10:00～16:30(入館は16:00まで)

入館料: 一般1,000円、大高生700円(※20名以上団体割引) 中学生以下無料

<http://www.seikado.or.jp>

堂 嘉 静

静嘉堂文庫美術館

SEIKADO BUNKO ART MUSEUM

## 美の競演 静嘉堂の名宝（仮題）

三菱一号館美術館「三菱創業150周年記念 三菱の至宝展」(2020年7月8日(水)～9月22日(火祝))開催に合わせ、期間限定で静嘉堂・東洋文庫・三菱一号館美術館の3館を巡ることができる共通券を販売予定。

2020年 6月27日(土)～9月22日(火・祝)

休館日：毎週月曜日(ただし、8月10日、9月21日は開館)  
8月11日(火)

2020年は三菱創業150周年であり、近代日本建築の父で、静嘉堂との関係の深いジョサイア・コンドル没後100年となります。本展では、静嘉堂を築いた岩崎彌之助・小彌太父子を同時代の芸術家や文化人との交流の中で紹介しつつ、重文、重美、その他所蔵品を代表する“名宝”をご紹介します。また、静嘉堂は岩崎家の社会貢献の精神を受継ぎ、15ヶ年計画で国宝・重文を中心に修理事業を行っています。このたび修理後初公開の名品とともにぜひお楽しみください。



重要文化財「油滴天目」  
南宋時代(12～13世紀)

重要文化財  
孫君沢筆「楼閣山水図」(左幅)  
元時代(14世紀)

修理後初公開!



酒井抱一「波図屏風」(右隻)  
江戸時代・文化12年(1815)頃

## 能をめぐる美の世界

～初公開・新発田藩主溝口家旧蔵能面コレクション～（仮題）

2020年 10月13日(火)～12月6日(日)

休館日：毎週月曜日(ただし、11月23日は開館)、11月24日(火)

日本文化を代表する古典芸能、能楽。江戸時代には武家のみならず、町人の間にも広まり親しまれました。この芸能を謡(言葉)と共に支えているのが、能面です。本展では、越後国新発田藩主溝口家旧蔵の能面コレクションを初公開致します。秋のひと時、大名家秘蔵の能面の数々にゆっくり向き合ってみませんか。能に関わる工芸品や書籍も展示。能の魅力を幅広くお伝えします。また、明治を代表する彫刻家、加納鉄哉(1845-1925)による伎楽面も登場します。迫力ある木彫面も合わせてお楽しみください。



【左】「翁(福来)」  
室町時代後期(16世紀)

【中】「中隠見」  
江戸時代初期(17世紀)

【右】菅原直之助  
「鞍馬天狗図刺繍額」  
明治40年(1907)頃